

認知症カフェって どんなところ？

介護老人保健施設はまかせ

認知症カフェとは

認知症の方やその家族、地域住民、介護や福祉の専門職など、誰でも気軽に集える場所です。

カフェという誰にでも開けた自由な場所で地域の人たちが自然に集まり、お茶を飲みながら交流できる場になっています。



認知症カフェに参加することで…

認知症の方やその家族が地域へ出かける機会となります。介護をする家族が悩みや大変さを共有したり、様々な情報を得たり、専門職に相談することもできます。

また、地域全体としても認知症に対する理解を深め、認知症になっても住みやすい地域づくりに繋がります。

居場所

認知症への理解



仲間との
出会い

繋がり

どのように行われているの？

- 設置主体

介護施設、地域包括支援センター、市町村等

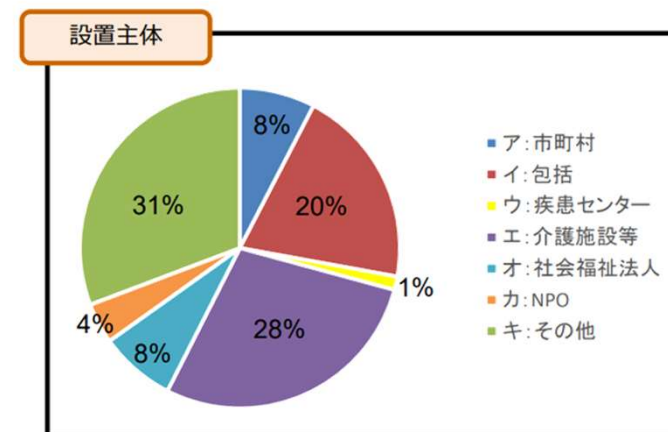
- 場所

多くは通所介護施設や公民館等を活用

- 内容

地域の実情や設置主体に応じて様々です。
講話、体操、音楽プログラム等を取り入れている認知症カフェもあります。

全国の実施状況



2019(令和元)年度実績調査(厚生労働省)

認知症カフェが生まれた背景

- オランダで始まった“アルツハイマーカフェ”が起源
 - 日本では
 - 2012年 「認知症施策推進5か年計画」（オレンジプラン）
施策の一つとして認知症カフェの普及が始まる。
 - 2015年 「認知症施策推進総合戦略」（新オレンジプラン）
“認知症の人の介護者への支援” に位置付けられ、
全市町村への設置と普及がすすめられる。
- ⇒認知症カフェが全国的に増加

新オレンジプランとは

「認知症施策推進総合戦略（＝新オレンジプラン）」

背景

高齢化に伴う、認知症の人の増加

目的

認知症高齢者等にやさしい地域づくりを目指す

- • • 団塊の世代が75歳以上となる2025年を目指して、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域や環境で自分らしく暮らし続けることができる社会を実現するために策定されました。

新オレンジプランの7つの柱

7つの柱

- 認知症の理解を深めるための普及・啓発の推進
- 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護などの提供
- 若年性認知症施策の強化
- 認知症の人の介護者への支援 ➡ **認知症カフェ**
- 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- 認知症の予防法、診断法、治療法、リハビリテーションモデル、介護モデルなどの研究開発及びその成果の普及の推進
- 認知症の人やその家族の視点の重視

認知症カフェの状況

＜全国的な実施件数＞（厚生労働省による実績調査より）

	2014年度		2019年度
• 認知症カフェ数	655件		7,988件
• 実施市町村数	280市町村		1,516市町村
• 鳥取県内実施数	4件		52件

認知症カフェは全国的に広がり、実施数も年々増加しています。

はまカフェ

- はまかぜでも認知症カフェを実施しています。
たくさんの方にご来場いただき、お茶をしながら、お話をしたり、体操や折り紙等をしています。
※現在は新型コロナウイルス感染症対策の為、お休み中。
- また再開の際にはホームページや市報でお知らせ致しますのでぜひお出かけ下さい。

